

ArcGIS

操作マニュアル

応急判定調査 判定士用(テスト用) v1.0

改訂履歴

版数	発行日	改訂箇所	改訂内容
第 1 版	2023 年 2 月 28 日	—	初版発行
—	—	—	—
—	—	—	—

目次

1. 機能概要	1
1.1 応急判定調査機能（テスト用）の概要	2
(1) 応急判定調査機能について	2
(2) 判定土用の機能（テスト用）	2
2. 調査前の準備	3
2.1 モバイルアプリのインストール	4
(1) ArcGIS Survey123 アプリのインストール	4
2.2 構造別調査フォームのダウンロード/更新	4
(1) 構造別調査フォームのダウンロード（例：木造）	4
(2) 構造別調査フォームの更新（例：木造）	5
3. 調査の実施	7
3.1 構造別調査フォームの入力	8
(1) 構造別調査フォームの入力手順	8
(2) 共通項目の自動入力方法	10
3.2 送信済みデータの修正（アプリ版）	11
(1) 送信済みフォルダーを開く	11
(2) データの修正	11
3.3 送信済みデータの修正（ブラウザ版）	11
(1) ブラウザーでの修正方法	11
3.4 インターネット接続不可時の入力	12
(1) インターネット接続不可時の注意点	12
(2) インターネット接続不可時の入力手順	12



1

機能概要

1.1 応急判定調査機能（テスト用）の概要

判定士用の応急判定調査機能については以下のとおりです。

(1) 応急判定調査機能について

応急判定調査機能は、応急危険度判定調査のための調査機能です。応急判定調査機能には、本部用と判定士用の機能があります。本マニュアルでは、判定士用の機能について説明します。判定士用の応急判定調査機能は、従来の紙ベースの調査をデジタル化し、入力や集計を効率化するための機能になります。

(2) 判定士用の機能（テスト用）

判定士用の機能は以下のとおりです。

- ・ 構造別調査フォーム
 - ・ 応急危険度判定調査（木造）フォーム
 - ・ 応急危険度判定調査（S造）フォーム
 - ・ 応急危険度判定調査（RC及びSRC造）フォーム



2

調査前の準備

2.1 モバイルアプリのインストール

(1) ArcGIS Survey123 アプリのインストール

「構造別調査フォーム」、「通行可否報告調査フォーム」を使用するには、ArcGIS Survey123 のモバイルアプリをインストールする必要があります。インストール方法は以下のとおりです。
引用：ArcGIS -ArcGIS Survey123 スタートアップガイド- https://www.esri.com/cgi-bin/wp/wp-content/uploads/documents/Survey123_Start-up_Guide.pdf

・iOS

- iOS デバイスで [App Store] アプリケーションを開きます。



- App Store の [検索] タブを開き、キーワードに「survey123」と入力し、ArcGIS Survey123 を検索します。検索された「ArcGIS Survey123」の [入手] ボタンをタップし、アプリケーションをインストールします。

・Android

- Android デバイスで、[Play ストア (Google Play)] アプリケーションを開きます。



- Play ストアの [検索] タブを開き、キーワードに「survey123」と入力し、ArcGIS Survey123 を検索します。[インストール] ボタンをタップしてアプリケーションをインストールします。

2.2 構造別調査フォームのダウンロード/更新

(1) 構造別調査フォームのダウンロード（例：木造）

- タブレットまたはスマートフォンで「応急危険度判定調査（木造）フォーム」のQRコードを読み取ります。自動でアプリが開きますので、「サインインしないで続行」を選択します。
- 自動的に「応急危険度判定調査（木造）フォーム」がダウンロードされます。

※一度読み取れば、調査票を閉じても調査票一覧画面に表示されるようになります。

木造	S造	RC及びSRC造
		

(2) 構造別調査フォームの更新（例：木造）

1. タブレットまたはスマートフォンでアプリ（Survey123）を起動します。
2. [利用可能な更新]のメッセージが出ている場合は以下の2通りで更新できます。
 - ・ 画面上側に表示されている[利用可能な更新]  利用可能な更新: 1 をタップ
 - ・ 更新したい調査票の更新マーク  をタップ



3

調査の実施

3.1 構造別調査フォームの入力

構造別調査フォームは、「被災建築物 応急危険度判定マニュアル」（一般財団法人 日本建築防災協会 全国被災建築物応急危険度判定協議会）を参考に、調査票をデジタル化したものです。詳細な入力方法については、「被災建築物 応急危険度判定マニュアル」に準ずるものとし、本マニュアルでは、「被災建築物 応急危険度判定マニュアル」と異なる部分や操作補助として説明します。

(1) 構造別調査フォームの入力手順

1. アプリを起動し、「応急危険度判定調査フォーム」を開きます。
2. [収集]をタップし、調査票を開きます。
3. 1ページ目（基礎情報）の項目を入力します。
 - ・ 建築物名称：〇〇邸、〇〇邸の離れ などを入力します。
 - ・ 調査日時：デフォルトのままにしてください。
 - ・ 班番号：必須項目です。
 - ・ 調査者名①（苗字）：必須項目です。
 - ・ 調査者名②（苗字）：必須項目です。
4. 2ページ目（建築物概要）の項目を入力します。
 - ・ 建築物名称：1ページ目で入力された「建築物名称」が表示されます。
 - ・ 建築物の位置：マップをタップし、十分に拡大した後、建築物にピンを立てます。
 - ・ 建築物用途：リストから1つを選択してください。その他は、詳細を入力します。
 - ・ 構造形式：リストから1つを選択してください。その他は、詳細を入力します。
 - ・ 階数：
 - 木造の場合：「平屋・2階建て・その他」から1つを選択します。
 - S造の場合：「地上階・地下階」を入力します。
 - RC及びSRC造の場合：「地上階・地下階」を入力します。
 - ・ 建築物規模：

「ア（間口方向）」と「イ（奥行方向）」を入力します。「ア（間口方向）」と「イ（奥行方向）」の回答より「建築物規模」を自動計算します。

5. 3ページ目（調査）の項目を入力します。

➤ 「調査方法」

- ・ 調査方法：選択肢から1つを選択します。
- ・ 1.一見して危険と判定される：リストから1つを選択してください。その他は、詳細を入力します。

➤ 「2.隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度」

- 木造の場合：①～⑥まで、選択肢から1つを選択します。

- S造の場合：①～⑧まで、選択肢から1つを選択します。

- ・ ③建築物全体又は一部の傾斜

※ 「傾斜を生じた階」：2ページ目で入力した「地上階」以下の値を入力します。
傾斜がない場合は、[1]を入力してください。

※ 「傾斜を生じた階の上の階数が1階以下の場合」または「傾斜を生じた階の上の階数が2階以上の場合」：「傾斜を生じた階」の入力によって変更されますが、どちらも傾斜を回答する質問です。傾斜がない場合は、[1.1/100以下]を選択してください。

- ・ 被害最大の階の状況

※ 「被害最大の階」：2ページ目で入力した「地上階」以下の値を入力します。

- RC及びSRC造の場合：木造の場合：①～⑥まで、選択肢から1つを選択します。

- ・ 判定（2）

※ 「調査率（%）」：可能であれば、調査率50%が望ましいです。「調査階で調査した柱の本数（本）」と「調査階に存在すると予想される柱の総本数（本）」の回答によって、自動入力されます。

※ 「損傷度Vの割合（%）」：「損傷度Vの柱総数（本）」の回答によって、自動入力されます。

※ 「損傷度IVの割合（%）」：「損傷度IVの柱総数（本）」の回答によって、自動入力されます。

➤ 「3.落下危険物・転倒危険物に関する危険度」

- 木造の場合：①～⑦まで、選択肢から1つを選択します。

- S造の場合：①～⑦まで、選択肢から1つを選択します。

- RC及びSRC造の場合：①～⑥まで、選択肢から1つを選択します。

➤ 写真

- ・ 全景：建物の全景写真を撮影してください。
- ・ 被害状況：判定基準となった被害状況の写真を撮影してください。
- ・ ステッカー：必須項目です。ステッカーにコメントを記載した後に写真を撮影してください。

➤ 総合判定

- ・ 「2.隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度」と「3.落下危険物・転倒危険物に関する危険度」の[危険度の判定]から自動選択されます。

➤ コメント

- ・ コメントは、判定ステッカーの注記と同じものを入力してください。

6. 入力内容を確認後、[送信]ボタンから調査票を送信します。

(2) 共通項目の自動入力方法

1. 1ページ目（基礎情報）を登録します。

- ① アプリを起動し、「応急危険度判定調査フォーム」を開きます。
- ② [収集]をタップし、調査票を開きます。
- ③ 1ページ目（基礎情報）の項目を入力します。
- ④ 画面右上の3本マークをタップし、[回答をお気に入りに設定]をタップします。
- ⑤ 画面左上の[×ボタン]で調査票を閉じ、[ドラフトに保存]をタップします。

2. 新規で調査票を開き、登録した内容呼び出します。

- ① アプリを起動し、「応急危険度判定調査フォーム」を開きます。
- ② [収集]をタップし、調査票を開きます。
- ③ 画面右上の3本マークをタップし、[お気に入りから回答を張り付け]をタップします。

3. 調査票に共通項目が自動入力されます。

※構造別に調査票が分かれているため、それぞれの調査票で予め設定しておく必要があります。

3.2 送信済みデータの修正（アプリ版）

(1) 送信済みフォルダーを開く

1. タブレットまたはスマートフォンでアプリ（Survey123）を起動します。
2. 調査一覧画面から調査フォームを選び、タップします。
3. 画面下側の[送信済み]  をタップし、送信済みフォルダーを開きます。

(2) データの修正

1. 送信済みフォルダーの中から修正したい調査票を探し、タップします。

- [リスト]の並び替えで探す場合 
 - ・ 画面下側の[リスト]をタップ
 - ・ 画面左上側の  マークをタップ
 - ※昇順、降順、最新、最も古い、最近隣内挿法、最も遠いから並び替え順を選べます。



- [マップ]で探す場合 
 - ・ 画面下側の[マップ]をタップ
 - 送信済みフォルダー内のすべてのデータを削除する場合 
 - ・ 画面下側の[なし]→[なし]の順にタップ
2. [編集して再送信]をタップし、データを修正します。



3.3 送信済みデータの修正（ブラウザー版）

(1) ブラウザーでの修正方法

ブラウザーでは、送信済みデータの修正ができないため、新規で同じ建物にピンを落として再度調査ドームを入力し、送信します。

3.4 インターネット接続不可時の入力

(1) インターネット接続不可時の注意点

インターネット接続不可時の注意点は以下のとおりです。

- ・ 「建物構造閲覧アプリ」は閲覧できません。
- ・ 「構造別調査フォーム」と「通行可否報告調査フォーム」は、送信はできませんが、一時的に端末に保存し、後で送信することが可能です。
- ・ インターネット接続不可時は、地図を開けないため、建物にポイントをおとせません。GPSで取得した位置に自動的にポイントがつきます。
- ・ ただし、本部がオフライン用の地図データを用意している場合、オフライン用の地図を使用できます。

(2) インターネット接続不可時の入力手順

1. タブレットまたはスマートフォンでアプリ（Survey123）を起動します。
2. 調査一覧画面から調査フォームを選択してタップします。
3. 項目を入力します。
 - ・ 位置情報の入力は、オフライン環境では入力できず、GPS位置が保存されます。
 - ・ 本部がオフライン用の地図データを用意している場合、オンライン環境と同じく建物の位置にポイントをつけます。
4. 画面右下側のチェックマーク→[送信箱に保存]の順にタップし、保存します。

※オフライン環境では、一時的に端末に保存することになります。
5. オフライン時に送信箱に入れたデータを、オンライン時に送信します。
 - ・ [送信箱]→[送信]を順にタップし、データを一括送信します。